日程第２．一般質問

○議長（松尾徹郎君）

日程第２、一般質問を行います。

発言通告者は１５人であります。

議事の都合により、本日５人、４日５人、５日５人を予定しております。

質問時間は、答弁を除き、１人３０分であります。所定の時間内に終わるよう質問・答弁とも簡潔に要領よくお願いいたします。

また、通告の範囲内にとどめるよう、ご協力をお願いいたします。

通告順に発言を許します。

中村　実議員。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

中村議員。　〔１５番　中村　実君登壇〕

○１５番（中村　実君）

おはようございます。創生クラブの中村です。

事前に通告いたしました通告書に基づき、２点の質問を行います。

まず最初に、ＳＥＡ　ＴＯ　ＳＵＭＭＩＴ２０２３について伺います。

７月１６日午前６時に、能生海水浴場から筒石港南公園までの約６キロメートルをカヤックとサップでスタートし、次に港南公園からロッテアライリゾートまでの約５１キロメートルをバイクで、そしてロッテアライリゾートから大毛無山１，４２９メートルの山頂までの約４キロメートルをハイクで、３種目を１日かけて７０組１１３人が挑戦した糸魚川・上越・妙高ＳＥＡ　ＴＯ　ＳＵＭＭＩＴ２０２３が無事に終了をいたしました。この環境スポーツイベントは来年で３回目となりますが、その後の開催は県と３市でどのように考えているのか、また来年の開催に向け問題点はなかったのか伺います。

(1) 今回のＳＥＡ　ＴＯ　ＳＵＭＭＩＴを終了し、反省点はなかったのか伺います。

(2) 定員上限が３００名となっていますが、来年の見込みはどうか伺います。

(3) 次回で３回目となり３市の持ち回りが終わりますが、その後の開催は考えているのか伺います。

(4) 今後は糸魚川市だけのＳＥＡ　ＴＯ　ＳＵＭＭＩＴのような環境スポーツイベントも考える必要があると思いますが、いかがでしょうか。

次に、２点目の市内の残土処理状況について伺います。

糸魚川地域では、現在、地域高規格道路松本糸魚川連絡道路と国道８号糸魚川東バイパスは一部完了、親不知道路は調査及び設計中と聞いています。いずれも発注者は市ではありませんが、市としては地元住民との調整役が大きな役割だと思います。

今のところ松本糸魚川連絡道路は少しずつ工事が進められていますが、東バイパスは大きな進捗は見られず、梶屋敷で工事が中断してから、いまだに計画が示されていない状況であります。また、親不知道路はこれからの調査設計という状況ですが、いずれもトンネル工事のため大量の土砂が発

生します。発生土砂の処分地はどのように考えていますか。また、国・県・市の発注土木工事やガス水道局発注工事は個々の業者が残土処理をしていますが、今後も同じ処理方法を考えていくのか、次の点について伺います。

(1) 松本糸魚川連絡道路・東バイパス・親不知道路の残土処理の適地はあるのか伺います。

(2) 発注先の残土処分場の安全性について調査をしているのか伺います。

(3) 掘削土砂の再利用は考えていないのか伺います。

以上で、１回目の質問を終わります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

米田市長。　〔市長　米田　徹君登壇〕

○市長（米田　徹君）

おはようございます。

中村議員のご質問にお答えいたします。

１番目の１点目につきましては、バイクステージにおける沿線住民の方からの苦情があったことから、改めて交通ルールの徹底やイベント開催の周知を図る必要があると考えております。

２点目と３点目につきましては、このイベントは新潟県と上越３市が連携して取り組んでおり、来年度の開催については、規模も含めて関係者と調整を始めたところであります。

また、７年度以降の開催は、今後、関係機関と協議をしてまいります。

４点目につきましては、ＳＥＡ　ＴＯ　ＳＵＭＭＩＴはスポーツを通じて地域の環境を考えるよい機会と捉えており、今後も検討してまいります。

２番目の１点目につきましては、大量の建設発生土が予想されており、平地の少ない当市においては、適地が限られ、課題であると考えております。

２点目につきましては、地滑り防止区域などの土地利用に制限がある場合は、調査を行っております。

３点目につきましては、開発事業での盛土や整地等に使用するほか、骨材などにも利用されることもあります。

以上、ご質問にお答えいたしましたが、再度のご質問によりましては、所管の部・課長からの答弁もありますので、よろしくお願いいたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

中村議員。

○１５番（中村　実君）

ありがとうございました。

今ほどの反省点というところでは、バイクで少し苦情があったというような話ですが、糸魚川市で行ったカヤック関係についての苦情はなかったということでよろしいでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

大西商工観光課長。　〔商工観光課長　大西　学君登壇〕

○商工観光課長（大西　学君）

おはようございます。

今ほどの質問にお答えさせていただきます。

実行委員会の反省会では、当市で実施されましたカヤックステージにつきましては、特段の反省事項はございませんでした。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

中村議員。

○１５番（中村　実君）

カヤックとサップの場合は、海上での競技、競技といいますかね、海上でやることなんで一般の人にはなかなか分からない。そこに関係してる人だけしか分からないというふうに思うんですが、昨年は転覆ということはなかったんですが、今年は３そう転覆して、それで２そうは２回転覆したと。合計５回救助しているというような状況がありました。２そうは、残念ながらもう体力が尽きたということで、ゴール付近まで搬送していったんですが、このような情報というのは入ってなかったんですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

大西商工観光課長。　〔商工観光課長　大西　学君登壇〕

○商工観光課長（大西　学君）

お答えいたします。

お問合せのとおり、今回は残念ながら転覆した事案が発生しております。

しかし、大会中は、随時情報共有ができる体制を取っておりまして、ご指摘の、合意いただいた遊漁船組合による救助によりまして、ゴール付近まで搬送された事案につきましては、随時承知しておりました。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

中村議員。

○１５番（中村　実君）

承知していれば、これ反省の中に入れておいてもいいのかなという、バイクだけじゃなくてね。やはり海の場合は命に関わる部分が多いんで、この辺はしっかりと今後反省していく必要があるというふうに思いますが、去年もそうですし今年もそうなんですけど、結構うねりが強かったし、潮が今回早かったんですよね。だから非常にカヤックも大変だったというふうに思うんですが、去年は、護衛船が４そうだったのが、今年はもう６そうに増やしたということで、それはよかったと思うんですが、１そうだけは複数人乗ってるんですが、あとの５そうは１人乗り、船長１人ということで、もしカヤックが転覆しても、船の上に上げることは１人だとできないんですよね。できれば２人、全船じゃなくても２人乗せることがベストだというふうに思うんですが、その辺はいかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

大西商工観光課長。　〔商工観光課長　大西　学君登壇〕

○商工観光課長（大西　学君）

お答えいたします。

ご提言ありがとうございます。今回、やはり護衛船に救助された事案もございますことから、来年度開催が決定いたしましたら、早急に改めて海上における救助体制につきまして、十分検討してまいりたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

中村議員。

○１５番（中村　実君）

糸魚川というか能生の場合は、大体６時頃というのは波がまだ高い時間帯なんですよね。７時頃になると、そろそろ波も落ち着いてくるという、去年も今年もそういう状況だったんですけど。６時のスタートをもう少し、７時頃まで遅らせるということができれば、もう少し安全にカヤックも走れると思うんですが、その辺はいかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

大西商工観光課長。　〔商工観光課長　大西　学君登壇〕

○商工観光課長（大西　学君）

お答えいたします。

大会のスタート時刻につきましては、やはりコース全体の距離や所要時間を考慮して決定しておりますことから、６時でのスタートは、妙高市でのゴール時間が遅くなることを避けたためでございます。そのようなことから、時間につきましては、今後また検討してまいりたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

中村議員。

○１５番（中村　実君）

多分、私も最後のゴールの時間を計算して６時のスタートというふうに決めたんだと思うんですが、バイクもハイクもそんなに危険ではないと思うんですよね、人間が見ているとこなんで。

ただ、海上に関しては、非常に危険なところなんで、安全のことを考えれば、７時にしたほうがいいというふうに思っています。ぜひその辺は、距離は短くするというわけにはいかないんで、７時にした場合にどういうところの、困るところが出てくるのかというのも、併せて検討をしっかりしていただきたいと思うんです。その辺はどうですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

大西商工観光課長。　〔商工観光課長　大西　学君登壇〕

○商工観光課長（大西　学君）

お答えいたします。

先ほどもお答えさせていただいたように、スタート時刻につきましては、やはり大会全体の行程によりまして決定されておりますので、来年度以降、改めて海上の波の状況等も考慮しながら、開始時間、開始時期等を検討してまいりたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

中村議員。

○１５番（中村　実君）

今年は、国内で１１か所、このＳＥＡ　ＴＯ　ＳＵＭＭＩＴが開催されているんですけど、私もこの１１か所ざっと見てみました。そうしたときに、６時のところも糸魚川以外にもありますけど、大体のところは７時なんですよね。海でやるというのが三、四か所ぐらいあるんですけど、やはり７時頃にならないと海が落ち着いてこない。どこでもやっぱりそうなのかなというふうに思っています。だからその辺も考えて、ほかのところもそういうことをしてますんで、情報ももらったりすればいいかなというふうに思っています。

消防長にお聞きしますが、先ほども言いましたが、昨年はカヤックは転覆なかったから問題はなかったんですね。でも今回は、５回転覆があった。もし転覆して溺れたときに、即座に船上に上げて、人工呼吸をする必要があると思うんですよね。今年は何でそのボートを、去年は出てたのに今年は何でボートを出さなかったのか、それをお聞きします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

竹田消防長。　〔消防長　竹田健一君登壇〕

○消防長（竹田健一君）

おはようございます。

お答えいたします。

大会事務局との事前の打合せで、海上での緊急時の対応、これにつきましては、護衛船にライフセーバーが乗船するとのことでありましたので、今年度は消防本部からボートを出さずに陸上での安全対策として救急車１台配備いたしまして、大会事務局と連絡を取りながら、海岸線を移動し、対応したところであります。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

中村議員。

○１５番（中村　実君）

確かに今回は、去年が４そうで今年は６そう、２そう増やしたんですけど、ライフセーバーが乗ってるのは１そうの船だけなんですよ。その船は、ほかのブイの設置とかいろいろあるんで、その船には四、五人乗ってるんですよ。あとの５そうは、全部１そうで、１人乗りなんですよ。その１そうのね、ライフセーバーが乗ってる船というのは、全体を見て、行ったり来たりしてて、たまたま今回その船が来たときに転覆があって、その船が救助してたんですけど、もしライフセーバー

が乗ってない船だけだと、さっき言ったように救助できない体制なんですよ。もし最悪、溺れて、ひっくり返って起きれなければ水飲むわけですから、そうしたときに連絡取って陸から駆けつけたって当然遅いですよね。１人乗りの船長も救命処置できるわけでもありませんし、それから、海上保安署も随分沖にいるんですよね。それがすぐ駆けつけられなかったら、駆けつけられないですよ。当然、大きい船から小さいボートを下ろして、そこへ来ると。それは非常に難しいんで、できれば来年から、ボートは出さなくていいと思うんですよ。ゴムボートだと救命行為できないんで、柔らかくて。だから、１人乗り船が５そうあるんで、来年も５そうなのか４そうなのか分かりませんけど、それに消防職員が１人ずつ、２人ぐらい乗っていただければ、ある程度はカバーできるというふうに私は思うんですけど、その辺の考えはないですか。今後の、来年に向けての対策だと思うんですけど。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

竹田消防長。　〔消防長　竹田健一君登壇〕

○消防長（竹田健一君）

お答えいたします。

海上での緊急時の対応につきましては、大会を安全に実施し、また参加する方が安心して参加できるように、そういったことは大変重要だと思っておりますので、消防職員の乗船、議員ご提言いただいた点につきましては、また来年度に向けて検討してまいります。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

中村議員。

○１５番（中村　実君）

ぜひバイクもハイクもさほど命に、熱中症とかね、そういうのが今年暑かったんで、そういう事例もあるかもしれませんけど、そんなにすぐ命に関わるということはないと思うんですよね。でもやっぱり海上はそういうわけにいかないんで、当然カヤックが連なって走ってたとしても、カヤックの人がカヤックを助けるというわけにはなかなか難しいんですよ。役員さんもカヤックに出てましたけど、その役員さんも情報を流すだけで救助に当たるということは非常に難しいんですよね。そうなるとやっぱり消防か、一緒に走ってる船じゃないとできないということなんで、やはり海上の安全を確保するためにも、ぜひ２人ないし３人、１人ずつ乗っていただければ安全かなというふうに思いますので、その辺ぜひ検討してみてください。

それから、ＳＥＡ　ＴＯ　ＳＵＭＭＩＴ、先ほど言いましたが全国で１１か所開催されております。これは、どこ見ても定員が上限３００名というふうに書かれているんですよね。上越３市では、昨年が約１００名ほど、今年が１１３名、定員の３分の１ほどの人数だったわけですよ。それはやっぱり周知する期間も非常に、見たら短いんですけどね、やっぱり県や上越３市、そしてモンベルのＰＲ不足ではないのかなというふうに思うんですけど、ＰＲをもう少ししっかりすれば、まだ集まったんではないかなと思うんで、その辺はどうですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

大西商工観光課長。　〔商工観光課長　大西　学君登壇〕

○商工観光課長（大西　学君）

お答えいたします。

大会のＰＲにつきましては、全国の約１００万人いますモンベルの会員の皆様にメールの配信のほうを行うほか、モンベルの各店、また近隣の公共施設、観光施設に、チラシのほうを配布させていただいております。

また、定員につきましては、モンベルの思想なんですが、環境に配慮する観点から、全国１１大会統一の３００人となっております。募集人員によりまして、参加者が少なかった理由の一つといたしましては、今議員おっしゃるように、ＰＲ不足ではなかったかなというふうに思っております。

ただ、やはり募集の状況を見まして、募集期間のほうを２週間延長させていただいております。

また、もう一つの理由としましては、今年度は、私らの大会の翌週に今年新規に山形のほうで新たな大会のほうが開催されました。そちらのほうの大会に分散されたものというふうに推測しております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

中村議員。

○１５番（中村　実君）

せっかくやるならね、大勢集まっていただきたいと思いますし、募集期間見ると、開催の１か月ぐらい前に締切りをする。それは段取りがあるんで、そらしょうがないと思いますけど、募集の期間から締切りまで１か月ぐらいしかないんですよね。その辺はもう少し改めていただければいいのかなというふうに思いますし、これからまた、次回の話合いがあるということなので、増やす方向で進めていただきたいんですけど、県や上越３市で終わった後に話し合ったときに、来年もう少し増やしたいよねという話があるのか、これぐらいでいいのかというふうに思っているのか、そういう話合いというのはあったものですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

大西商工観光課長。　〔商工観光課長　大西　学君登壇〕

○商工観光課長（大西　学君）

お答えいたします。

今現在、やはり大会が終わりましたので、反省会等のほうを開催させていただいております。その中で、やはり各種の問題点や要望点などを含め、来年度の開催に向けて調整を始めたところでございます。その協議の中で、どのような方法が参加者増加につながるのか、またつなげていけるのか調整しながら、また検討してまいりたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

中村議員。

○１５番（中村　実君）

ぜひ最低でも２００ぐらいを目標にね、やっていただきたいというふうに思っているんですが、ただ、増えるとやはりスタッフやボランティアの数が不足してくるのではないかなというふうに私自身も思っています。

そういった中で、課長個人の考えでもいいんですけど、何人ぐらいが、糸魚川市として、全体を見るんじゃなくて糸魚川市として何人ぐらいが、１５０がベストなのか２００がベストなのか、３００まで大丈夫だよというふうに課長は思ってるのか、その辺をお聞かせいただきたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

大西商工観光課長。　〔商工観光課長　大西　学君登壇〕

○商工観光課長（大西　学君）

お答えいたします。

今回、スタッフにつきましては、今までの全国で行われた大会の様子を確認しながら、１５０人というボランティアのスタッフのほうを配置させていただいております。

今ほど議員おっしゃるように、私個人的には、安心と安全を図るためには、若干増やすことも可能ではないかなというふうに思っておりますが、やはり経費の問題等もありますので、今後考えさせていただきたいなと思っております。

ただ、反省会の中では、運営に対してのスタッフやボランティアの人数不足についてのお話は、出ておらなかったのが実態でございます。

また、やはりスタッフやボランティアの代わりに、各コースのところに掲示板や案内板等を設置させていただいております。その数につきましては、やはり若干足らないんではないかな、そこに表示を増やすとか、また今ほどおっしゃったように人を増やすとか、そういった方策も考えられるかなというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

中村議員。

○１５番（中村　実君）

当然、大会やるんで、大勢のほうがにぎやかで見栄えもいいですよね。そればっかりではなくて、参加者、最初は１３０人程度ということで、船のほうも６そうに増やしたんです。それが最終的に１１３人で終わったんですけど、１人で来る人はあんまりいないみたいなんですよね。当然、自転車運んだり、カヤック運んだりというそういう作業がありますので、友達とか家族で来ているんですよ。それが、１１３人が全部糸魚川に宿泊した、食事に行ったというふうには思わないんですが、大勢集まることによって、糸魚川市における経済効果は相当なものが出てくると思うんです、たった一晩ですけどね。今回の場合は、前日と当日２日間ありましたけど、やはり経済効果というのをしっかりと調べていく必要があると思うんですけど、まだ１か月半ぐらいしかたっていないんでね、経済効果、調べてるのか、これから調べるのか分かりませんけど、その辺はどうですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

大西商工観光課長。　〔商工観光課長　大西　学君登壇〕

○商工観光課長（大西　学君）

お答えいたします。

やはりこのようなイベント等を行うときは、私ら全てアンケートを取るような体制を取っております。今回、大会参加者へのアンケート結果を見ますと、遠方からの参加者は、大会の前日から上越地域に入られた方もおられますし、宿泊される方も大勢おられました。中には、終わった後も宿泊して、帰られた方もおったようでございます。

宿泊先につきましては、今回、糸魚川市が環境イベントの会場でございましたので、やはり糸魚川市に宿泊された方が全体の中では一番多かったことになっております。やはり今後、経済効果ということですので、もう少し詳細が把握できるように、今後改めてアンケートの調査の中身のほうを検討してまいりたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

中村議員。

○１５番（中村　実君）

今回は、前夜祭も糸魚川で、当日も糸魚川からの出発。去年は上越でやったわけですけど、当然、上越でやろうが妙高でやろうが、どこでやろうが出発点は能生浜なので、人間とすれば、近くに宿泊するというのが当然だと思うんですよね。だから、参加者さえ増えれば、当然、経済効果はすごく上がってくるんです。宿泊者も増えるだろうし、夜、魚を食べにいく人もいるだろうし、中にはキャンピングカーだとかテントだとかという人も、今の時代ですからね、多くいると思いますけど、やはりその辺もしっかりと調査していく必要もあると思いますし、やっぱり長く続けていくとしたら地域にとっての経済効果、メリットがないと長続きしないのではないかなというふうに思っております。今までに何度も、糸魚川市はまだ、この辺はまだ２回ですよね。ほかのところでは、全国で何か所もやってるんで、ほかのところで長年やってるところがあれば、そういうところの情報を聞きながら、そういうところのメリット・デメリットというのが分かると思うんで、その辺の情報をしっかり取っていただければ、やり方次第では、糸魚川市のさらなるＰＲにもつながっていくんではないかなというふうに思いますけど、その辺はどうでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

大西商工観光課長。　〔商工観光課長　大西　学君登壇〕

○商工観光課長（大西　学君）

お答えさせていただきます。

このＳＥＡ　ＴＯ　ＳＵＭＭＩＴを開催するメリットといたしましては、全国１００万人以上おられますアウトドアを愛好家とします方をターゲットに、糸魚川市が持つ海、山、里の魅力を発信できるとともに、県内外から参加者が当市に来ていただきまして、宿泊や飲食をいただく機会が増えることがメリットではないかなというふうに考えております。

しかしその反面、デメリットでございますが、やはり大会の開催要領が全国統一のものになっておりまして、私ら地域の特色を出した開催ルールとすることができません。そういったことがデメ

リットの一つかなというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

中村議員。

○１５番（中村　実君）

特色を出すのは難しいって言うけど、糸魚川へ行くと食べるものがおいしいよとかね、そういうことをＰＲしていけば、大会に出ながらおいしいものを食べにくるという人も増えてくるのではないかなっていうふうに思います。これもすばらしい環境スポーツイベントなんで、今後続けていただきたいというふうに思うんですが。最終的には、モンベルさんが上越３市の開催をどのように感じているのか。２回やってどんな感じあるのかな。今後も、この３市でやる、それが価値があるのかどうかということですよね。その辺は、モンベルの、辰野会長も来ていられたということなんで、もしかしたら、会長ともそんなような話をして、この糸魚川３市の開催について、会長は何か市長に対して、こそっと話をしたようなことがあれば聞かせていただきたいんですけど。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

米田市長。　〔市長　米田　徹君登壇〕

○市長（米田　徹君）

お答えいたします。

辰野会長とは、前日、懇談、夕食会の中でさせていただきました。非常に昨年、そして今年、上越３市という、やはり県内においてもちょうどまとまりのいい数といいましょうか、少ない数でございますので非常にお互いに胸襟を開いて意見交換ができたと思っておりますし、そして、やはり特色の違う３市が一体となって行うこのイベント、いろいろあるんですが、今までにない横のつながりが強くなったんではないかなというのを私自身も感じましたし、他の両市も感じておりますし、辰野会長におかれましては、非常にこの新たな試みの中においては、非常に他にない、そういったやはりチームワークを感じたということを捉えていただきました。特色の違う３市が、しっかりとタッグを組めたいいイベントになったなという評価をいただきましたので、非常に我々といたしましても心強く感じまして、３回目に向けてしっかりやっていこうという意思決定が、そこでなされたかなとは思っております。またその中に、辰野会長もやはりしっかりと連携していきますよという、またしっかりとこの支援の体制を取っていきますよという話をいただきまして、心強く思った次第でございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

中村議員。

○１５番（中村　実君）

会長もしっかりと、この地域のことをよかったなというふうに考えてくれてるっていうことで、大変うれしく思っておりますが、もう一点、市長にちょっと伺いたいんですけど、せっかく会長がそのように思ってくれているなら、今マリンドリームもこれから改修工事という話が出ております。ぜひマリンドリーム内にモンベルショップを出していただければありがたいなというふうに思って

おります。

マリンドリームは、大体カニを食べにくるか、魚を食べにくるか、買い求めていくかというお客さんがほとんどなんですけど、やはりモンベルさんもなかなか有名な店でありますので、マリンドリームにもし出店していただければ、また違うお客さんが増えるのではないかと。それによって、またお互いに相乗効果も上がってくるんじゃないかなというふうに思っていますので、市長はどのように考えていますか。また、会長、出したいなという話はなかったですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

米田市長。　〔市長　米田　徹君登壇〕

○市長（米田　徹君）

お答えいたします。

非常にモンベルさんとは、今糸魚川市はフレンドシップを結んでおります。今の段階ではそれだけなんでありますが、辰野会長から、もっとやっぱり絆を太くしていこうよという話をいただきました。それに対して、私は応えていきたいという話をさせていただいておりまして、早い時期にそれを進めていきたいと思っております。

その中で、糸魚川の位置づけという形の中で、モンベルさんのやはり有名なショップについて、またご協力いただけるとか、また市として何ができるかというところをやはり詰めていきたいと思っておる次第であります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

中村議員。

○１５番（中村　実君）

モンベルさんどっちかっていうと、ちょっと地味な押さえ気味な商品が多いんですが、アウトドア商品にすれば、確かないい品物ばっかり置いてありますので、もしマリンドリームにそういう店を出せるなら、マリンドリームも、また株も一つ上がるんじゃないかなというふうに私は思っています。ぜひよろしくお願いいたします。

次に、ほかの場所でもＳＥＡ　ＴＯ　ＳＵＭＭＩＴを開催しているんですが、なかなか横のつながりがうまくいかなくて断念しているというところがあるというふうにお聞きしております。糸魚川市内には、カヤックやバイク、ハイクの適地がどこにでもあります。この大会とは別に、環境スポーツイベントも進めたほうがいいのではないかなというふうに私は個人的に思っています。例えば高浪の池サイクリングロードも、一部を残して完成をしています。高浪の池からヒスイ峡を使ったバイクとハイクのイベントもできるかなというふうに思っています。環境がもう既に整った場所もありますので、早急に計画する必要があると思うんですが、その辺はいかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

大西商工観光課長。　〔商工観光課長　大西　学君登壇〕

○商工観光課長（大西　学君）

お答えいたします。

ご指摘の高浪の池サイクリングロードは、今年度、整備のほう終わりました。新たに糸魚川市のアクティビティとして、多くのお客様からご利用いただいているのかなというふうに思っております。ご提言いただいております、その環境スポーツイベントに取り組むステージは、糸魚川市はポテンシャルはあるというふうに思っております。引き続き、やはり調査のほうを行いまして、実施に向けて検討のほうを進めてまいりたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

中村議員。

○１５番（中村　実君）

ＳＥＡ　ＴＯ　ＳＵＭＭＩＴだけではなくてね、やはり糸魚川市に合ったそういうことも今後やっていく必要があるのかなと思っております。ＳＥＡ　ＴＯ　ＳＵＭＭＩＴの場合は、自然の環境を体感し、自然の大切さについて考える環境スポーツイベントというふうに書かれております。過去には、能生ではトライアスロンやグランフォンド糸魚川、それも開催されていましたが、同じような趣旨で開催されていたのではないかなというふうに思っています。

このグランフォンド糸魚川については、東京のイベント会社も少し関わりたいなという話も今、来ております。また、違うアウトドア関連会社でも、能生浜でのアクティビティも今後やっていきたいということで、１０月頃に計画をしているという情報も入っております。

また、県の主催で自転車を活用したまちづくりツーリズム、基調講演を１０月に開催されるというふうに聞いていますが、今、糸魚川市が非常にいろんなところで注目されつつあります。今後の糸魚川の自然を今売り込むちょうどチャンスではないかなというふうに私は思ってますが、市長いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

米田市長。　〔市長　米田　徹君登壇〕

○市長（米田　徹君）

お答えいたします。

ご指摘のとおり、糸魚川市は非常に広大な面積を有しておる市でございまして、そして、急峻ではありますが、山間地もかなりあるわけでありまして、そして今までに、この整備といたしましては、農道・林道を設置をしてまいりました。そういった施設を生かしながら、イベントというものは対応できるんではないかなとは思っております。

ただ、やはり一番心配なのは、今までいろんなイベントやってくる中で、なかなか続いてこなかった大きな理由は、やはり自然を相手にするわけでありますし、やはりこの参加された方の安全を考えたときに、スタッフの、人的スタッフがかなり必要になってまいります。その辺が課題であって、なかなか続かなかったところも見受けられるわけでありますので、そういったところをどのように超えていけるのか。そしてまた、屋外の、そういったアクティビティな競技なり、スポーツは、事故が伴うわけでありますので、安全をどのように捉えていけばいいかというところがやはり課題かと思っておるわけでございますので、そういった点についてどのようにしていくかというところが、今の担当課にしろ、また市民の皆様方にしろ、やはり一番そこが課題であるということで、踏

み切れないところもあるのをお聞きいたしておる状態でございます。その辺もやはり超えなければ、我々地域のこの自然を生かせないなと思っておるのも実情でございますので、そういった課題に向けて対応していきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

中村議員。

○１５番（中村　実君）

ぜひいろいろ計画していただきたいと思います。もう糸魚川市の職員が減ってきたんでね、職員で全部賄うという時代では多分なくなってきてるんだと思うんですよ。いろんなイベント会社も、こういうものに関わりたいというイベント会社も随分出てきていますんで、ある程度の段取りだとかね、そういうものはもう、そういうところを今後使って、糸魚川市をＰＲしていくんだということも考えていっていただきたいというふうに思っています。今、市長が言われたみたいに、糸魚川市はいいところがいっぱいありますので、また来年になると新幹線も延伸しますし、糸魚川に呼び込むチャンスだと思いますので、ぜひよろしくお願いいたします。

次に、残土処理場についてお伺いいたします。

今、私は今後、土捨て場がどうなるのかというのが、非常に心配をしています。先日も能生漁港のしゅんせつ土砂、何年も山積みしてあったんですが、やり場がなく、県のほうでやり場がなくなったということで１万立米ほどシャルマンの下のほうに運んだようですが、今後、３か所の工事、トンネル工事が始まると莫大もない量の土砂が出てきます。今のうちに土捨て場の候補地を探す必要があると思うんですが、その辺はどのように考えていますか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

長﨑建設課長。　〔建設課長　長﨑英昭君登壇〕

○建設課長（長﨑英昭君）

おはようございます。

お答えいたします。

今ほどおっしゃられたように、今後、大型プロジェクトが控えている中で、トンネル工事が非常に多く発生することが想定されます。それで、発生土砂につきましては、ただ単に埋め立てて、処分するだけではなく、有効利用することが重要であると捉えております。当市におきましては、適切な残土処分地というのが非常に少ない状況でありますので、今後、大型プロジェクトの進捗と並行して、引き続き処分地の確保に努めてまいりたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

中村議員。

○１５番（中村　実君）

公共工事も、どの工事でも、トンネルでもそうなんですけど、やっぱり出た土砂を再利用できれば一番その無駄にならないんですよね。土捨て場も、ここももう満杯だという状況になってますんで。一番早く、トンネル工事が始まるのは西川原トンネル、松本糸魚川連絡道路、そこではないか

なというふうに思っていますけど、このトンネルの掘削土砂は、西川原のバイパス工事の盛土に使うというふうに県のほうでは話してるんですが、県に確認したらトンネル工事というのは、いつ発注になるか分からんということを言ってるんですよね。そうなると、県のほうでは土砂が出ないと盛土ができないという状況で、仕事が進まないんですよね。もう既にそのバイパスは、用地買収がほとんど完了していまして、今、障害物件の電柱の移設だとか、それから、側道の付け替え工事を今やってるというふうに思っています。盛土は、その後の発注になると思うんですが、そのトンネルの発注がいつ頃になるかというのは、県工事なんでね、市で分からないと思うんですけど、何か情報があったら教えていただきたいんですが。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

長﨑建設課長。　〔建設課長　長﨑英昭君登壇〕

○建設課長（長﨑英昭君）

お答えします。

事業主体であります新潟県のほうに確認させていただいたところ、トンネル工事を実施するに当たりまして、トンネルの坑口部ですかね、あちらのほうの落石対策をちょっと行う必要があるということで、現時点では、トンネル工事の発注時期については、検討中であるということでお聞きしております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

中村議員。

○１５番（中村　実君）

落石工事っていうと、これから調査して、どういう工法でやるのかね、切土するのか、吹きつけするのか、よく分かりませんけど、それこそいつになるか分からない。そうなると、バイパス工事が進まないですよね。できればトンネル土砂を当てにしないで、違うもので埋め立てしていかれればいいなというふうに思うんですよ。

ただ、そのトンネル土砂をそこに使わないと、ほかのとこで使い道がないというと、これはやむを得ない、時間がたってもそこで待ってるしかないんですが。公共工事で、糸魚川市の公共工事で発注したところで盛土で使えるものはね、今どっかでストックしてあるやつとか、これから出る工事で、盛土に使えるものがあれば、そこに運ぶことができれば、事業所も市も県も助かると思うんですが、その辺はいかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

長﨑建設課長。　〔建設課長　長﨑英昭君登壇〕

○建設課長（長﨑英昭君）

今ほどご提案ありましたとおり、発生土を再利用ですか、それは非常に有効な利活用であるというふうに私も認識しております。それで今後、松本糸魚川連絡道路の工事の工程を、再度、県のほうと調整させていただきまして、今言われたように利活用によりまして、工事の進捗が図れるようであれば、盛土材として利用が可能か確認しながら、費用対効果のほうを含めまして、利活用の検

討をしてまいりたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

中村議員。

○１５番（中村　実君）

先ほども申しましたけど、能生漁港のしゅんせつ土砂もシャルマンに運んだり、それから姫川港の背後地にある工場の土砂も山の上に運んだりと。それは県の工事なんですけど、糸魚川市としても目いっぱい協力して、土砂のやり場を考えてるわけですよね。その辺も県のほうからも理解していただいて、糸魚川で出た土砂も、県の工事じゃなくても、良質の土砂だとしたら、改良土に使えるんなら、そこにストックすると、バイパスのほうにストックするというような協力体制も取っていく必要があると思うんですけど、その辺はどうお考えですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

長﨑建設課長。　〔建設課長　長﨑英昭君登壇〕

○建設課長（長﨑英昭君）

議員のご提案のとおりだと思いますので、今後の公共事業ですか、その辺を調整しながら、県と連絡のほうを密に調整を取っていきたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

中村議員。

○１５番（中村　実君）

そこに公共工事の仕事が、県の仕事でも国でも市でも、良質の土砂をそこにまずストックしてって、改良して、盛土に使えるということになれば、お互いにメリットはあると思うんですよね。その辺をしっかりと県のほうと話をしていっていただければなというふうに思っております。

また、先ほど言いました姫川港の土砂ですが、それも今は３万立米ぐらい置いてあるらしいんです。そのほかにも、まだ船だまり工事とかいろいろやると３万立米ぐらい出るという、莫大もない量が出るんですよね。それもどっちにしろ、姫川港もバイパスも松本糸魚川連絡道路のバイパスも県工事なんで、その姫川の土砂をそこに盛土として使えないのかなというふうに思うんですよ。それは果たして、砂利ばかりで改良しても使いづらいということならどうしようもないんですけど、課長にちょっと県のほうに確認してくれってことで投げかけてあったんですけど、その辺の情報というのは入ってきてますか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

大西商工観光課長。　〔商工観光課長　大西　学君登壇〕

○商工観光課長（大西　学君）

お答えいたします。

姫川港の工事の部分につきまして、私のほうからお答えさせていただきますが、現在、姫川港では、西岸壁の整備に伴いまして、しゅんせつ工事のほうを行っております。工事に伴うしゅんせつ

土砂につきましては、現在、計画的に歌地区へ搬出しておりまして、いまだ搬出できないものが、今ほど議員おっしゃったようにストックされているような状況でございます。

なお、このしゅんせつ工事に伴います発生する土砂は、１５万立米と計画されておりまして、その３分の２に当たります１０万立米が歌地区へ運ぶ運びとなっております。残りの５万立米につきましては、そのほかの場所へ搬出する見込みがついたというふうにお聞きしております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

中村議員。

○１５番（中村　実君）

歌に大量の土砂をね、今取りあえずそこにある姫川の土砂を歌へ運んでるわけですけど、その姫川にある土砂を西川原バイパスに盛土として使えれば、歌へ運ばなくていいわけですよ。そうなれば、親不知道路のトンネルを掘削したときに、そこのほうが近いわけですよね。その土砂を例えばそこへ持っていくとか、そういうことも、それは今度、国の話になりますけど、やはり糸魚川市として、そういう調整をすることも大事だと思うんです。ただそこが空いてるから、取りあえずそこへ持ってけばいいやってことじゃなくてね、先のことまで考えて進める必要あると思いますが、その辺いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

長﨑建設課長。　〔建設課長　長﨑英昭君登壇〕

○建設課長（長﨑英昭君）

今、大西課長のほうから姫川港の残土の方向性を言わせていただいたんですけども、今後いろいろと様々な公共工事に伴う残土が出てくるかと思いますので、今ご提案を受けたものは受け止めさせていただきまして、今後どのように調整するか、そのような調整が可能なのかも踏まえて、再度、国・県のほうと調整のほうさせていただきます。

「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

大嶋産業部長。　〔産業部長　大嶋利幸君登壇〕

○産業部長（大嶋利幸君）

補足させていただきます。

当地域で行われております公共事業に伴います調整につきましては、年に１回、国土交通省、高田河川国道事務所、また松本砂防事務所、県の振興局、糸魚川市等で、この地域で行う公共工事の全体の調整の連絡会議を行っております。そういう中でも情報交換を行いまして、有効な発生土の活用によりまして、各種の事業が円滑に進捗するような、ふうに、引き続き取り組んでまいりたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

中村議員。

○１５番（中村　実君）

調整をね、うまくやっていかないと、どうやって調整しようが、土砂を捨てる場所は、捨てるっちゃおかしいな、土砂を持っていく場所は、糸魚川市内なんですよ。だから、やはり情報共有をしながら、国だろうが県だろうが、造成に使ったり盛土に使ったりできる部分は、どんどんそういうところに使っていかないと、やり場がもうなくなってきます。今この３つの大型工事が終わると、相当の量が、もう糸魚川市内のところでは、今後の工事が出ても捨てられないような状況になってくると思うんですよね。だから今のうちに計画を立ててやっていく必要があるというふうに思っております。

また、違う視点でいきますと、上越市では、もう既に土砂を改良して、埋め戻しに使ってるという状況、上越市では２か所そういうところがあって、そこに、公共工事の土砂が出たらそこに持っていって、そこで改良して、埋め戻しをする。例えばガス・水道局の仕事で下水道工事があった場合に、掘削して管を埋めますよね。その管の巻き立ては、当然砂でやらなきゃいけないんですけど、その上の上層部は改良土を、そっから出した改良土を、またそこへ行って、埋め戻す。するとそこで、半分ぐらいは持ち出した土砂を使えるんですよ。そういうことも、糸魚川市として考えていく必要があると思いますし、市で出た造成とかそういうところでも改良して、そういうものをまた使っていくことも考える必要があると思うんですが、樋口局長、長﨑課長、どのように考えていますか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

樋口ガス水道局長。　〔ガス水道局長　樋口昭人君登壇〕

○ガス水道局長（樋口昭人君）

お答えいたします。

建設発生土を改良施設で集積して再利用するという議員のご提言につきましては、土捨て場が不要となりますし、また、資源を有効に利活用するという点で理想的な取組だと思います。

一方で、導入するには建設発生土を常に一定量確保することや、改良した土砂を必ず使用してリサイクルを循環させなければいけないという、そういった課題もあるかと思います。今後もガス・水道工事、毎年継続的に行われますし、残土量も相当量発生すると思われますので、残土の再利用を進めるためにも、他事業への利活用や、今、議員のご提言も含めまして、幅広く検討のほうさせていただきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

長﨑建設課長。　〔建設課長　長﨑英昭君登壇〕

○建設課長（長﨑英昭君）

建設課のほうでは、残土の利活用につきましては、土質の種類とかにもよるんですけども、広い範囲で利活用を考えていく必要があると考えております。

今ほどご提案ありました土砂の改良につきましては、改良土の安定した品質の確保とか、あと改良の作業に必要なヤードの確保とか、そういった課題等もあるんですけども、今後、使用目的に応じまして、費用対効果も含めて検討のほうをしてまいります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

中村議員。

○１５番（中村　実君）

上越市のほうでは、もう既にね、何年も前からこれは始めてるんですよね。セメントだとか石灰だとかっていうのを改良土砂と混ぜて、それを良質なものを埋め立てしてるということなんで、市のほうでは、上越市のほうでは、よく詳しく私知らないんですけど、やっぱりチケットを切ってるらしいんですよね。搬出するときもチケット、持ってくるときも市のチケット、それを使って、間違いなく土砂をそこへ戻してるかっていうことをチェックしてるそうなんです。その辺またしっかりと、上越の情報を聞きながら使っていただければ土砂も減ると思うんですよね。当然、糸魚川市でその改良土をやるところ造るってわけにもいかないんで、民間にやはり、上越の場合は民間で２か所やってるらしいんですよね。それも民間に、本気でやるんだということになれば、民間も設備投資しなきゃいけないんで、そこそこの金額がかかるということを聞いております。ちょうど今、土石流、熱海の土石流もちょうど２年がたって、引っ越しができるということでありますので、そういうことが起こらないように土砂のやり場をしっかりと考えていただきまして、安全な糸魚川市にしていただければというふうに思います。

ありがとうございました。

○議長（松尾徹郎君）

以上で、中村議員の質問が終わりました。

暫時休憩いたします。

再開を１１時５分といたします。

〈午前１０時５８分　休憩〉

〈午前１１時０５分　開議〉

○議長（松尾徹郎君）

休憩を解き、会議を再開いたします。

次に、和泉克彦議員。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

和泉議員。〔１３番　和泉克彦君登壇〕

○１３番（和泉克彦君）

和泉克彦でございます。

発言通告書に基づきまして、１回目の質問をいたします。

１、地域公共交通の現状と課題、地域観光振興について。

新型コロナウイルス感染症が、２類相当から５類に移行したことにより、コロナ禍よりは交流人口、特に外国人の方々が増えています。この夏のまれに見る厳しい暑さにもかかわらず、多くの方々が、様々な交通手段を利用して、この糸魚川市を訪れています。中でも、多くの方々が、北陸